


<http://veritas.nikkei.co.jp>



投資金融情報紙
「日経ヴェリタス」のご案内

日本経済新聞社

ご挨拶

日本経済新聞社は2008年3月、新しい投資金融情報紙「日経ヴェリタス」を創刊します。これに伴って、長い間ご愛顧いただいた「日経金融新聞」は休刊いたします。日経が新たな紙媒体を創刊するのは21年ぶりのことで、計画を発表して以来、各方面から大きな反響を呼んでいますので、新媒體の創刊を決めた背景について、ご説明したいと思います。

3つの大きな変化を意識しました。まず、金融市場で起きている地殻変動です。「貯蓄から投資へ」。個人のおカネが株式、債券、投資信託、外貨建て預金といった金融商品に流れこみ、日本の金融市場の光景はまさに一変しました。個人マネーは国境を超え、時には外国為替市場を動かすほどのパワーを持ち始めました。それは個人個人がリスクに目を背けては前向きな生活設計のできない時代の到来です。生活者の視点に立ち、丁寧でわかりやすい「投資金融情報紙」が今まさに求められていると、我々は考えました。

2つ目の変化は金融商品・サービスの高度化、多様化です。世の中には数多くの金融商品、サービスがあふれています。その割りに数多くの商品の中からより安全で、有利なモノを選ぶ「確かなモノサシ」が少ないと感じます。日本経済新聞社には他紙を圧倒する数多くの専門記者が国内外にいます。こうした記者が足で取材した豊富なニュースに加え、プロの声を集めたランキング、格付けなど、様々な形で投資判断のモノサシを提供します。

3つ目はネット革命の進展です。いまや、ネットを通じて世界中の様々な投資情報が入手できるようになりました。便利さの半面、日々のニュースに追われる感覚を持つ人は多いのではないのでしょうか。我々はだからこそ「じっくりと考えるメディア」を創ろうと考えました。「日経ヴェリタス」は毎週末、ご自宅にお届けします。日々のニュースから半歩離れ、深く掘り下げた読み物や一級の識者の相場観を見て、じっくりと投資戦略や生活設計を考える。そんなリズムを大事に考えたからです。ただ、投資金融情報にとって「速さ」は命。そこでネットとの融合を実現しました。読者の皆様は日曜の朝、ネットで読者限定の最新情報にアクセス出来ます。

「一週間はこの新聞から始まる」。個人投資家にとっても、金融機関や事業会社で働くビジネスマンにとっても、なくてはならない必読紙を目指します。「日経ヴェリタス」にご期待ください。

代表取締役社長 杉田亮毅

一流の投資は一流の情報から。2008年3月創刊の「日経ヴェリタス」は経済報道の第一線で経験を積んだ日本経済新聞の記者が取材し、編集する週刊の投資金融情報紙です。「日経ヴェリタス」は投資家の視点に立ち、株式や金融商品の投資に欠かせない情報を発信します。世界の金融・株式市場にアンテナを張り巡らせ、マーケットの鼓動を伝えます。インターネットと連動し、読者専用サイトで独自のニュースをお届けします。おカネのことを真剣に考えているすべての人に「ヴェリタスがあっけよかった」と思ってもらえるよう、最高品質の紙面をめざします。

深く—じっくり読める記事が売り物です

個人投資家から金融専門家まで。マーケットとつながりを持つ市場参加者が日ごとに増えています。資産形成に役立つ情報を週末じっくり読み、投資やビジネスのヒントにしたい。そうした声に応えるため、「日経ヴェリタス」は日経の専門記者が深く取材した付加価値の高い記事をお届けします。毎週のカバーストーリー（巻頭特集）では企業の投資価値にさまざまな角度から光を当てる、プロの相場観を集計・分析する、金融商品やサービスを徹底比較するといった手法を通じて、市場の「いま」と「これから」を浮かび上がらせます。話題の経営者や著名投資家の本音に迫るインタビュー、記者座談会、各種の企業ランキングなども掲載します。手にとりやすいタブロイド形式、デザイン重視の紙面、アイウエオ順の上場銘柄相場表など、じっくり読んでもらうのにふさわしい体裁にも徹底的にこだわります。

遠く—世界のマーケットを網羅します

投資マネーが国境を超え、世界を駆ける時代。日本の個人金融資産に占める外貨の比率が高まり、「家計のグローバル化」が進んでいます。日本経済新聞は欧米主要国、BRICs（ブラジル、ロシア、インド、中国）各国、さらにベトナムや中東のドバイなどにも日本から記者を派遣し、経済ニュースを発信しています。「日経ヴェリタス」はこの取材ネットワークを駆使し、現地発の生きた記事をふんだんに盛り込みます。欧米の最新金融事情はもちろん、成長センターとして注目される新興市場国のニュースにも力を入れます。海外の一流エコノミストによる寄稿や、提携海外紙の翻訳記事も掲載します。世界を遠くまで見渡せるメディア。それが「日経ヴェリタス」の強みです。

速く—ネットと連動、最新の情報を提供します

投資情報は速さも大切。じっくり読める週刊紙「日経ヴェリタス」には、ネットと連動した速報メディアという顔もあります。すべての定期購読者にIDとパスワードを配り、会員専用サイトで日々の経済ニュースをご覧いただけます。ネット上には無数の情報が流れては消えていきます。しかし資産形成を真剣に考えている人にとって何より必要なのは、情報の「量」でなく「質」であるはず。日経ヴェリタスの会員専用サイトでは20年の歴史を持つ日経金融新聞の看板コラム「スクランブル」をはじめ、クオリティーの高い記事を読むことができます。世界のマーケットが大きく動いた時などにはこのサイトに刻々と最新情報を載せ、読者ニーズに応えます。

揺るぎなく—信頼の情報をお届けします

貯蓄から投資へ。この言葉は経済の新潮流を示すだけでなく、個人が投資リスクに向き合う覚悟を問うている言葉でもあります。リスクの海をこぎわたる羅針盤となるのが投資情報。「日経ヴェリタス」は日本経済新聞が長年にわたって培ってきた経済、金融、証券、企業取材の伝統をベースに、新たな投資の時代にふさわしく、かつ信頼される紙面を編集します。「すぐに儲かる」ことをうたった情報媒体とは違います。まじめに投資を考えている人、投資・金融にかかわる仕事をしている人、そして生きた経済ニュースを必要としているすべての人に向けて、息長く、揺るぎない情報を発信していきます。

媒体概要

基本構成

判型	タブロイド判、横組み
ページ数	72頁(編集34頁、数表20頁、広告18頁)
配達日	日曜日に購読者へ宅配(一部地域はメール便で配達)
編集ページ	「企業・株式(個別銘柄+相場情報)」 「金融商品、サービス」「グローバル市場」「暮らしと経済」
相場表	本紙中央、抜き取り式
発行部数	10万部(予定)

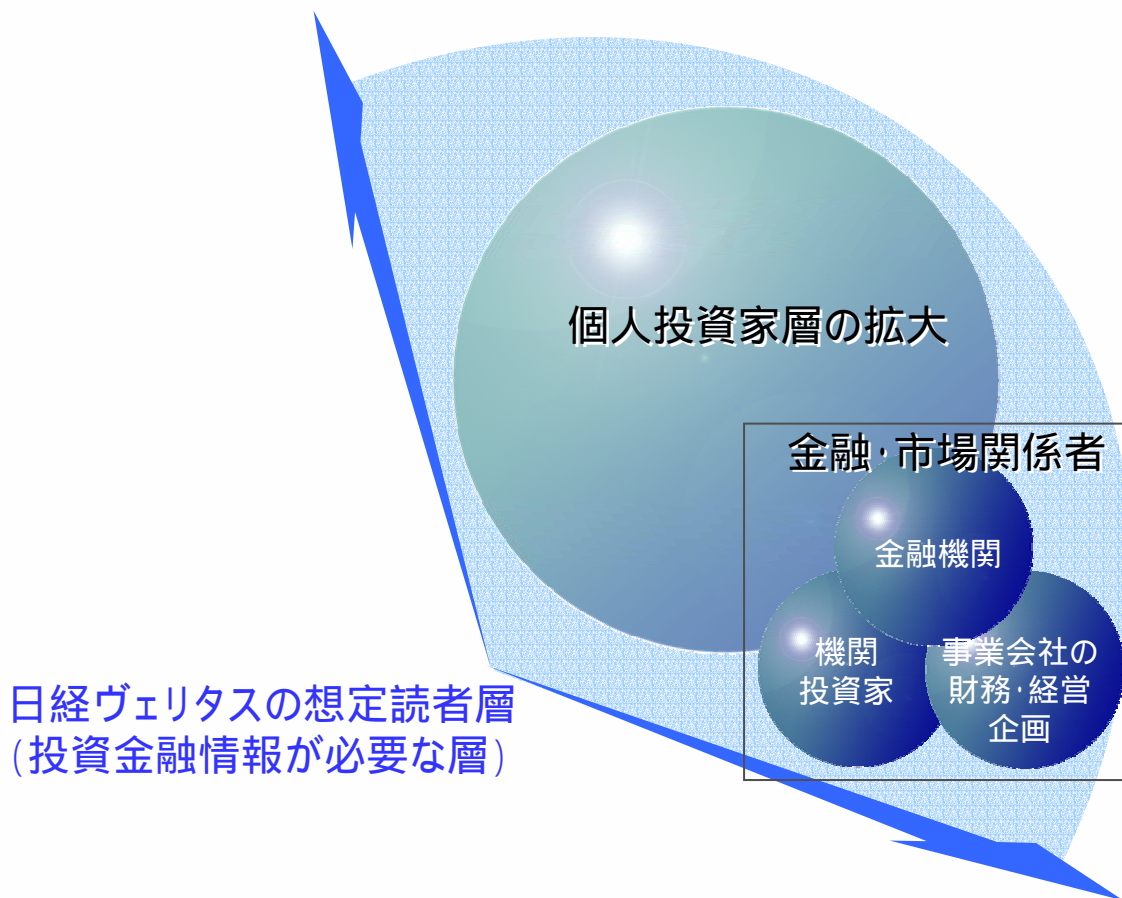
読者限定インターネットサービス

対象者	定期購読者全員[ID、パスワードを付与(即売を除く)]
サービス内容	<ul style="list-style-type: none">● 日曜日朝に全紙面を電子ブックシステムにて配信● 日々の経済ニュースの配信● 過去記事の検索● あらかじめ登録したキーワードでのクリッピング機能

購読料

購読料	6ヶ月(26週) 13,000円(1号あたり500円) 1年(52週) 23,400円(1号あたり450円) 2年(104週) 41,600円(1号あたり400円)
-----	--

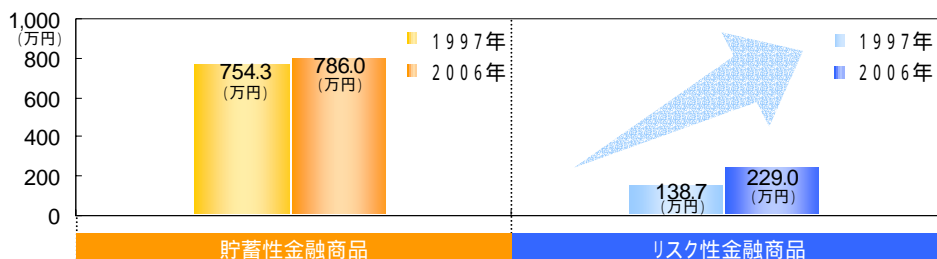
金融・市場関係者と、拡大している個人投資家に対する情報提供



マーケット状況 (個人投資家層の拡大)

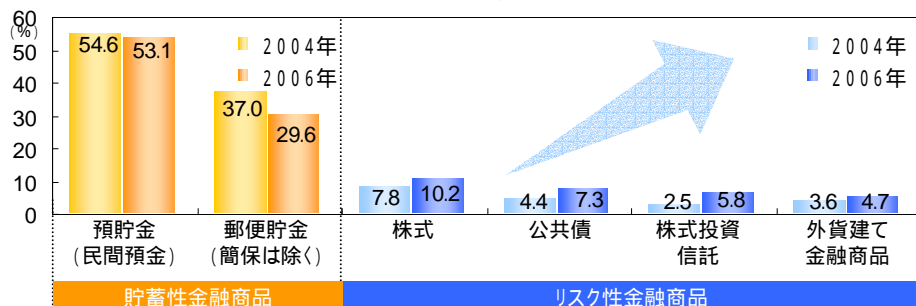
● 変化する消費者の資産状況

貯蓄性金融商品は横ばい、リスク性金融商品は6割増し



● 今後、1～2年の間に貯蓄を増やしたり、保有を始めてみようと考えている金融商品

貯蓄性金融商品の保有検討者減少、リスク性金融商品の保有検討者増加



(出典: 日本銀行 家計の金融資産に関する世論調査2006)

広告主

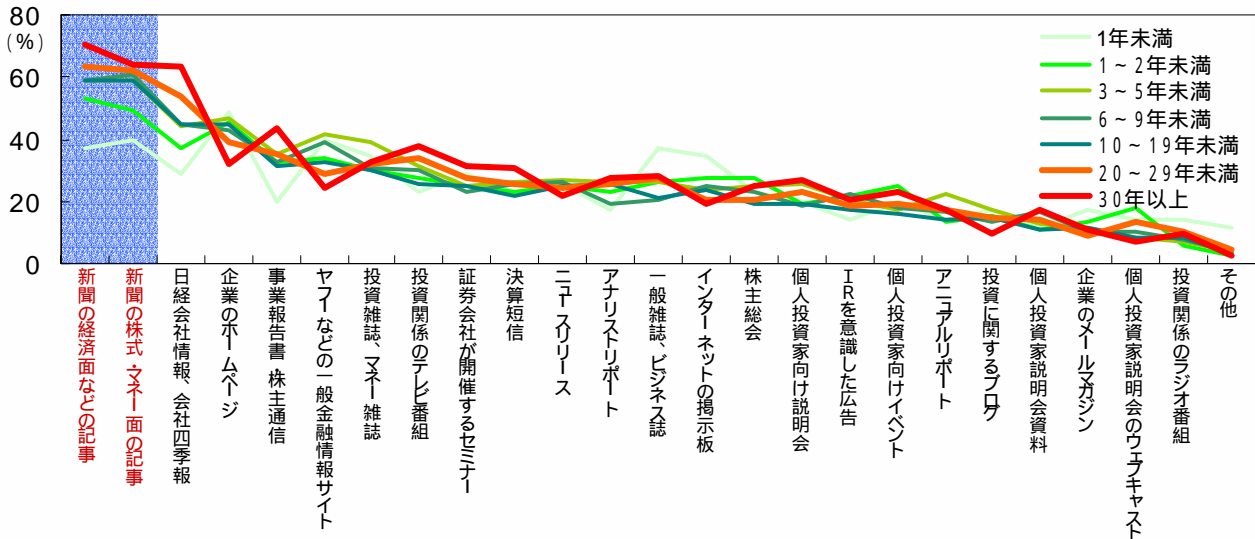
日経ヴェリタスを使用した広告展開



【参考】個人投資家が求める情報源

● 個人投資家が今後求める情報源は？ (投資経験年数別)

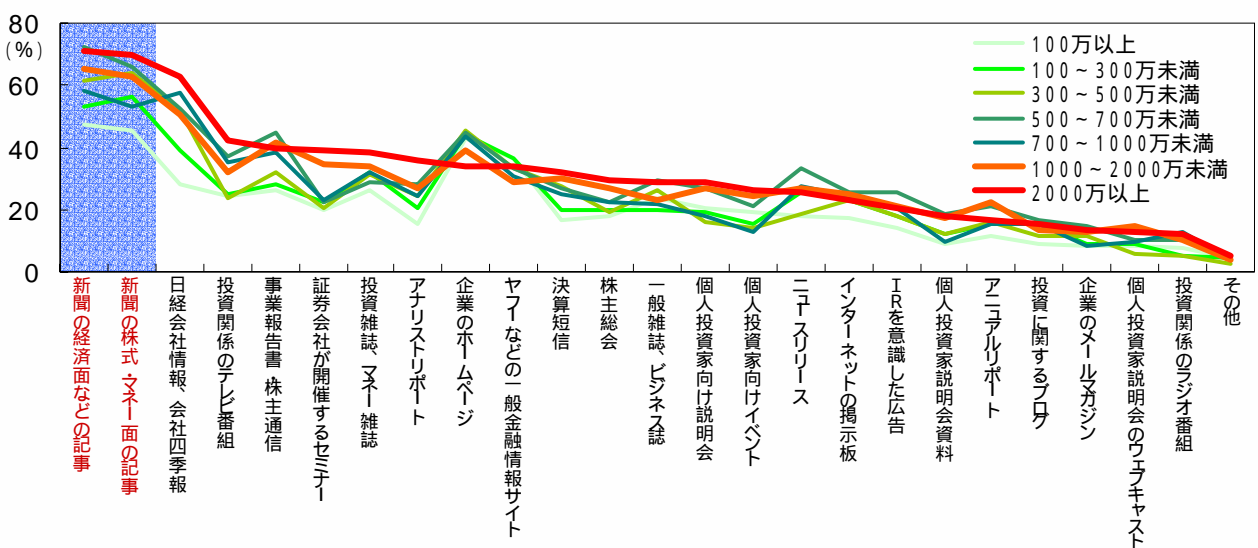
「新聞の経済面などの記事」「新聞の株式・マネー面の記事」を情報源として求めている。(投資経験年数が長いほど、傾向が強い)



(出典:個人投資家の投資意識とIRニーズに関するアンケート 2007年6月 日本IR協議会調べ)

● 個人投資家が今後求める情報源は？ (年収別)

「新聞の経済面などの記事」「新聞の株式・マネー面の記事」を情報源として求めている。(年収が高いほど、傾向が強い)



(出典:個人投資家の投資意識とIRニーズに関するアンケート 2007年6月 日本IR協議会調べ)

日本經濟新聞社

東京本社	〒100-8066	東京都千代田区大手町1-9-5	電話03-3270-0251
大阪本社	〒540-8588	大阪市中央区大手前1-1-1	電話06-6943-7111
名古屋支社	〒460-8366	名古屋市中区栄4-16-33	電話052-243-3371
西部支社	〒812-8666	福岡市博多区博多駅東2-16-1	電話092-473-3381
札幌支社	〒060-8621	札幌市中央区北一条西6-1-2	電話011-281-7201
神戸支社	〒650-0011	神戸市中央区下山手通7-1-24	電話078-371-0496
京都支社	〒604-0874	京都市中京区烏丸通竹屋町角	電話075-241-4310